

授業づくりって難しい

私は現在、完全単位制・多部制の定時制高校（いわゆるフレックススクール）で社会科を教えています。学年はなく、毎日のSHRもありません。74単位を修得できたら卒業なので、卒業にかかる年数も3年から8年まで多様です。でも、退学が多いのです。入学した生徒のうち半数くらいしか卒業していないのが寂しいところです。自由って、厳しいです…。

授業は予定と変わる

9月4日に前期期末テストがあり、21人が受検しました。翌週(9/11)テスト返し、そうしたらその次の時間(9/19)にはなんと出席者は9人！ん～、反動がきたか？出席者の内訳は、昨年度入学生が3人、今年度入学生は5人。

9月19日の授業のはじめ、「アメリカはイギリスからの移民から始まった」という話をする際に、最近のニュースに触れました。

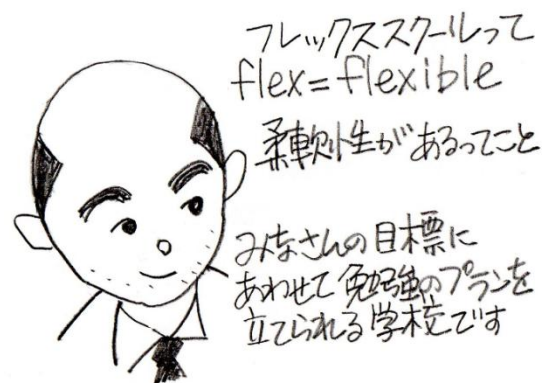
「移民といえば、最近シリアという国から大勢の人々が、ヨーロッパにやってきて混乱しているというニュース、知らない？」

教室は沈黙…ただ一人の生徒が「うん」とうなずいています。

前週の授業(9/11)は14人いたのですが、予告としてアメリカの話をしました。この日、米国同時多発テロ事件を知っていたのは皆無。んー確かに、15～16歳の生徒たちは、この事件のときわずか1～2歳ですね。まさに歴史の一部です。14年前のこの日ということもあり、ここで9・11の話をしてはいけないわけにはいかず、予定を変更して9・11が掲載されている教科書のページを開いてもらって概要を話しました。一人の生徒には寝られてしまったのですが、特に今年度入学生の女子はすっごく真剣に聴いていて「日本人も被害に遭ったの？」とか質問も出ました。他の生徒も関心を持ったようでした。

予定していた授業内容とはかなり変わってしまうことが度々あります。でも、私はこれが自然な形だと思うんです。

「生徒が替われば授業が変わる」これは私が大学四年生の時に、ある小学校の校長先生から聴いた言葉です。教師になって、ずっと心がけて



いることですが、前年と同じ授業をやって失敗すると、この言葉を思い出して反省することは何度もあります。

ある種の怖さ

「さて、アメリカは世界地図のどのあたりにあるかな？」

ちょっと戸惑う生徒もいたけれど、やはり、広いからでしょうね、けっこう見つけ易い。

「イギリスはどこ？」ちょっと小さくて見つけるのに苦労している生徒もいる。昨年度入学生のうち3人は女子で友だち同士だから話をしながら一緒に調べている。あとの昨年度入学生1人(男子)と新入生たちはそれぞれ話をしたこともない者同士。席もバラバラ。結局、私が一人ひとりに関わって、一緒に確認していきました。

うちの学校は、小中学校時代に不登校を経験した生徒がとて多い学校なので、私自身には、ある種の怖さがあるのです。

だって、学年・クラスがないことで学校に来られている生徒がいることは事実です。コミュニケーションをとることが苦手でも、高校を卒

業することができるという希望を持って本校に
来ている生徒がいるのは事実です。

わかってますよ、そんなことを言っていたら
人間関係を構築する力なんてずっと育たないで
はないか！ということは。

そう、グループワークとかやってみてから考
えてもいいではないか、とも思うのですが、た
だ私はあえて入学した1年目にやるには、失敗
したリスクが高いと感ずるのです。ただでさえ、
退学者が多い学校です。まずは学校に来て、楽
しく学べることを分かってもらえたら、次につ
ながると思うんです。

迫っているもの

でも、私の説得力の弱さは、3年目、4年目
の生徒たちによるグループワークはまだ実施で
きていないところです。少人数クラスであったり、
バランスの良い生徒の構成であったりすれば、
授業イメージも湧きやすいのですが、その
生徒たちが履修する社会科の授業はどれも一般
校なみに30人以上いる点で手をこまねてい
ます。

でも、何とか授業をつくれるように、今必死
で考えているところです。それは、迫っている
ものがあるからです。そう、それはアクティブ・
ラーニング！

「アクティブ・ラーニング」

さて、文部科学省が進めようとしている「ア
クティブ・ラーニング」ですが、本校でも前期
をアクティブ・ラーニング研修期間として、研
修係の先生たち
が中心となって
毎週1回ニュー
スを配布し、研
修会を2回やり
ました(係の先
生方お疲れ様で
す)。そしていよ
いよ、後期には
校長による授業
参観がはじまり



ます。「アクティブ・ラーニング」を導入した各
先生の授業を校長が見るわけです。

私は、私が話す時間を少なくして、グループ
と言えるものでなくても生徒同士が話をしなが
ら、生徒が主体的に考えられるような授業づく
りをしたいと思っていますが、まだまだ道筋は
見えていません…。はてさて、どうなることや
ら…授業づくりは難しいです。

何を学ぶか どのように学ぶか

ところでアクティブ・ラーニングとは…

以下は、2014年11月20日に文科省が中教
審に諮問した「初等中等教育における教育課程
の基準等の在り方について」の一部です。

(これからの社会において)必要な力を子供
たちに育むためには、「何を教えるか」という知
識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのよう
に学ぶか」という、学びの質や深まりを重視す
ることが必要であり、課題の発見と解決に向け
て主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクテ
ィブ・ラーニング」)や、そのための指導の方法
等を充実させていく必要があります。こうした
学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上
でも、また、子供たちの学習意欲を高める上
でも効果的であることが、これまでの実践の成果
から指摘されています。

すべての子どもに当てはまるわけではない

まあごもつとも感じるところはあるのです
が、「やらなくてはならない」となると、どうに
も息苦しいというのがホンネですね。それに、
「効果的」と謳っていてもすべての子どもに
対して当てはまるなんてあるわけないし、やっぱ
り、生徒をしっかり見ながら導入していかないと、
逆に学習意欲を削いでしまうなんてことにも
なっちゃうかなとも思うのです(ん～やっぱ
り弱気でしょうかね)。

と、まあ、この原稿を何日もかけて書い
ているうちにいよいよ私の校長参観は1ヶ月後
に迫りました！できる範囲で導入しつつ、生徒
が第1、授業プランは2番目3番目という気持
ちでやってみようと思います。